

Nonbiri Journal
わがやまに
恋した人々
Wakayama

海草郡紀美野町
町田愛さん
MACHIDA AI
埼玉県から移住



森林の面積が75%を占める紀美野町。緑濃い山あいの小道を進むと、洒落た小さな旅館のような構えのお店が現れた。そば&カフェあんのんは、本格的な十割そばと、地元野菜を使った料理を提供する店として、今年4月末にオープンしたばかり。

「どうせやるなら、自分たちの好きなものを形にしよう。長野のそば屋さんで働いたこともあったので、その知識も活かすことにしました」9カ月の長女を抱きながら、町田愛さんは話す。精進料理に興味があったことから、高野山の宿坊寺院、天徳院の厨房で働くため、埼玉県から出てきたのが和歌山との出会い。そこで、同院の執事として宿坊の運営を手掛けていた夫の英嘉さんと知り合い、2013年に結婚した。

「私はヨガのインストラクターもしていて主人も僧侶。瞑想ができる静かな環境で暮らしたいとふたりで話していたんです」。そこでカフェとヨガ教室も一緒に開けるようにと、自然豊かな紀美野町でゆっくり家探しを始めた。そして2年半後、「柿畑を継承してもらえらるなら」という条件で農家から古民家を譲ってもらった。さらに2年がかりで母屋の建て替えや長野県でのそばの勉強など、準備を進めてきた。

2人の子育てに追われながら店を切り盛りする愛さん。金曜日の夜には英嘉さんの手も借り、料理の仕込みなど遅くまで開店の準備を行う。それ以外にも柿の木の消毒や枝切りなど休む暇はない。「朝から晩までやることはいっぱいですが、やった分だけ成果がある。山と川に囲まれた環境は最高です」と満足そうに笑った。

瞑想のできる静かな環境を求めて
山と川に囲まれた、そば&カフェ



元気いっぱいの3歳の長男、9カ月の長女とともに。「子どもができたおかげで地域の人たちとの交流ができました」と英嘉さん。

受け入れ施策 Come on!

移住者の暮らしをバックアップするため、和歌山県ではさまざまな支援制度を整備している。町田さんが利用したのは、移住後に新たに起業をする人を対象にした移住者起業補助金(最大100万円)。ほかにも空き家改修補助(最大80万円)などの支援がある。また、移住希望者を対象にした現地体験会も定期的に開いている。詳しくは→<https://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/>

My Favorite Scene

紀美野町って
こんなところ!

紀美野町には都会のような賑やかな街並みやきらびやかなネオンなどはありませんが、山に登れば美しい景色が広がり、夜空には星々が騒がしいほど輝いています。耳を澄ませばどこからか川のせせらぎやカエルの鳴き声も聞こえてきます。そんなのどかな幸せに出会える所です。



店の裏にある畑では柿を中心にピワなども栽培している。夫妻とも、農業は初経験。付近には、かんきつ類の畑も多い。



町内には、105センチの大型望遠鏡を備える町立みさと天文台も。



エメラルド色に澄んだ川の水。夏には清流をアユが泳ぐ。



山あいをゆうように流れる清流。兩岸は火山岩が深く切れ込んでいる。浅瀬に足を浸すと、冷たい水が心地よい。

川原には丸い穴が。大自然の不思議にワクワク



嵐穴と呼ばれる川原に空いた穴。川の流れが作ったというからオドロキ!

集落の子供たちを見守るお地蔵様に出会うと、なんにかほっとする。

心地よい山の空気に
包まれて



前オーナーが建てた店舗隣の3階建てのログハウスを住居にしている。2階のベランダは開放感タップリ。すぐ近くを流れる清流は、長男のお気に入りの遊び場だ。「豊かな自然の中で、すくすくと育てほしい」と2人は目を細める。



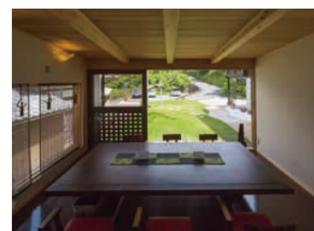
緑の中で
手打ちそばと料理を



信州から取り寄せた、こだわりのそば粉を使った十割そば。「そばは奥が深いので一生勉強」と愛さん。ランチには自家製の胡麻豆腐や黒豆の煮物、てんぷらがつく。

あんのん

住所 / 海草郡紀美野町鎌滝674
電話 / 073-499-7114
<https://www.facebook.com/annon674kimino/>
営業は土日曜のみ



味のある手書きの看板に沿って車を走らせると、ほどんど店が現れる。引き戸をいっばいあけると、周囲の自然と一体化できる明るい店内。将来的には、ヨガ教室も開きたいという。